

国語プリントNo. ()

()

年 組 番 名前

配布日 月 日 曜

百人一首をよむ 黄

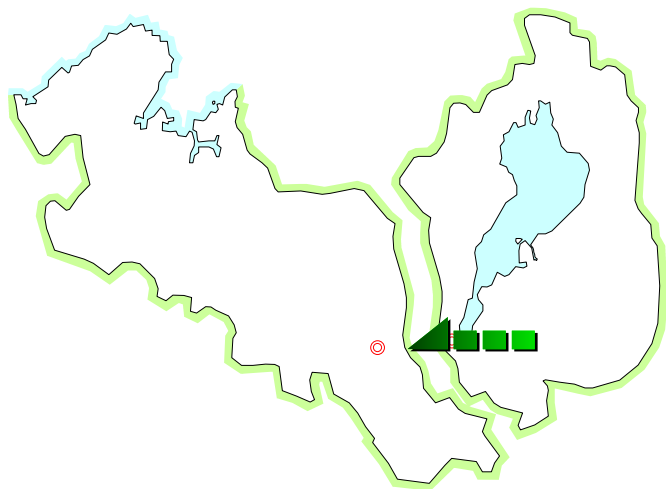
短歌にはいろんな修辞法が使われています。歌の修辞法や歌や内容がわかると、もっともつと歌を覚えやすくなります。ちょっとずつ覚えていきましょう。

掛詞

10 これやこの行くも帰るも別れては しるもしらぬもあふ坂の関 蝉丸

【歌意】これがまあ、東国へ行く人も都へ帰ってくる人も、別れては再び会い、互いに知っている人も、知らない人も会うという逢坂の関なのか。

逢坂の関……「逢坂山」のふもとに置かれた関所。京都から東国への出口に当たる要所で、三関の一つ。



96 花さそふあらしの庭の雪ならで

（ ）
ふりゆくものはわが身なりけり
（ ）

【歌意】桜の花をさそうように散らす、嵐吹く庭の、その花吹雪ではなくて、本当に古りゆくものは私自身であるよ。